

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

兵庫県 福崎町

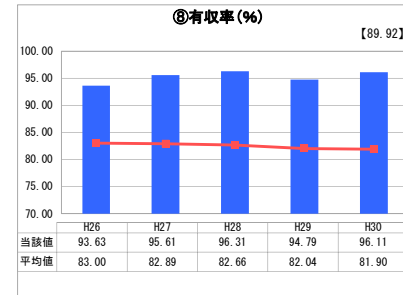
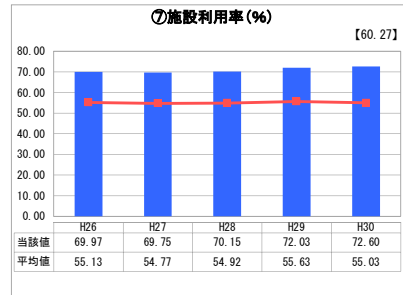
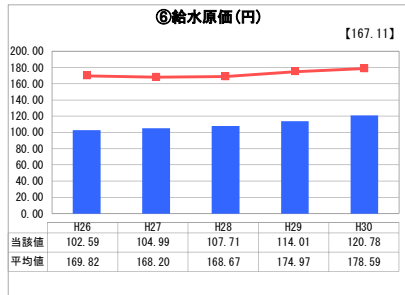
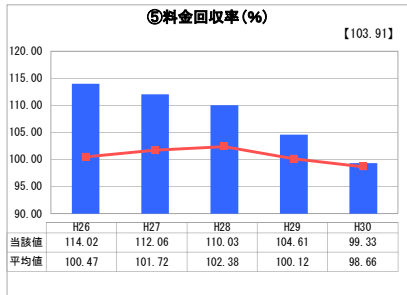
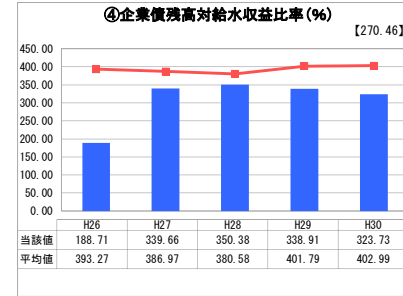
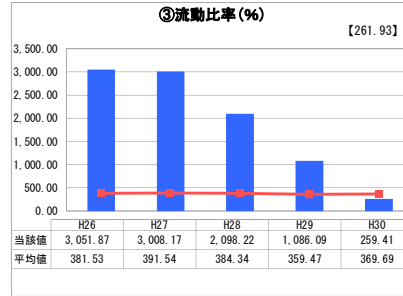
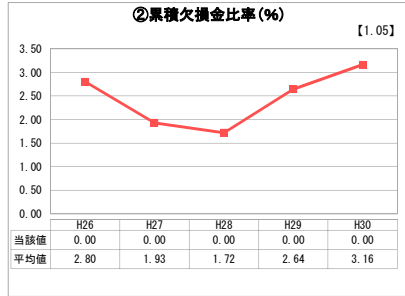
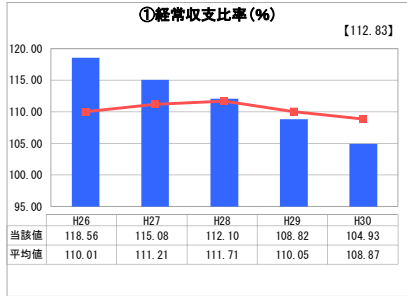
業務名	業種名	事業名	類似団区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	自治体職員
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金 (円)	
-	77.82	99.50	1,980	

人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
19,353	45.79	422.65
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km <sup>2</sup> )	給水人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
19,165	45.79	418.54

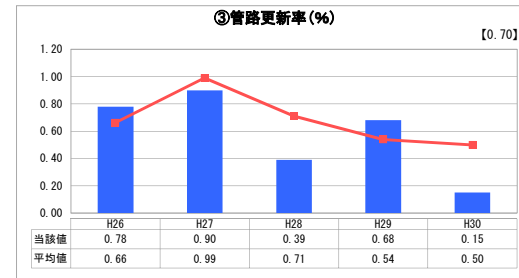
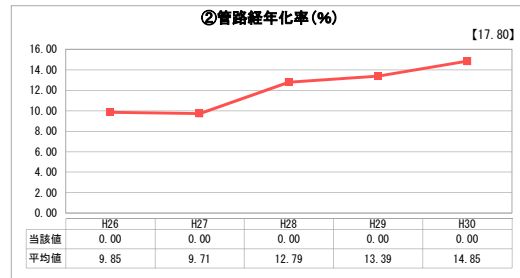
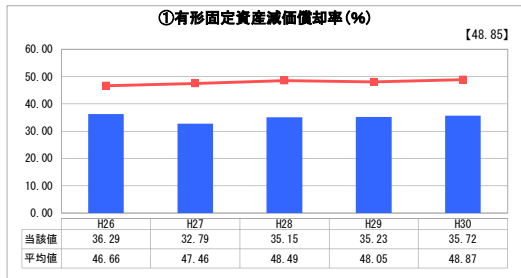
**グラフ凡例**

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

過去5年間においては、施設の更新等による減価償却費の増加に伴い①経常収支比率は100%以上を維持しているものの、年々下降する傾向にあり類似団体平均を下回る状況が続いている。また②累積欠損はないものの、平成30年度は水道ビジョン等の計画策定による一時的な費用の増大のため、③流動比率及び⑤料金回収率が類似団体平均をわずかに下回った。④料金回収率は100%未満となった。

一方で、⑥給水原価や⑦施設利用率、⑧有収率は類似団体平均に比べ高い水準を維持している。今後は、料金回収率が100%以上を維持するよう経常費用を精査していく必要がある。

また、④企業債残高対給水収益比率は、平成29年度以降は新たに企業債を発行していないため少しずつは新たなものが減少し、類似団体の平均以下の比率を維持することができている。今後も自己資金とのバランスを考慮し、適正な資金の管理に努める必要があると考える。

今後、給水人口の減少や節水型機器の普及による水需要の減少により、給水収益及び事業収益が漸減に転じることが予想される一方で、老朽した施設の更新に多額の財源が必要となる厳しい経営状況の中、今年度に策定した「水道ビジョン」及び「経営戦略」により計画的に事業経営を進め、また定期的に検証を重ねることにより、安定した事業の経営を図っていく必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

本町の水道事業においては、償却対象資産の老朽化の度合いを示す①有形固定資産減価償却率は類似団体平均よりも低い水準を維持している。

一方で③管路更新率は、平成30年度は類似団体平均を下回ったが、これまで下水道工事に併せて更新をするなど積極的な更新投資を行ってきたことにより、老朽化は比較的抑制できていると考えている。

今後は、現在は正確に把握できていない②管路経年化率の把握に取り組み、管路を含めた施設の更新を計画的に進めることにより、安定した水道サービスの供給に努める。

### 全体総括

本町の水道事業は、「1. 経営の健全性・効率性」では①経常収支比率の下降傾向にあり、また平成30年度は一時的な費用の増加により⑤料金回収率が100%を下回ったが、⑥給水原価や⑦施設利用率、⑧有収率は類似団体平均に比べ高い水準を維持しており、「2. 老朽化の状況」から見ても、類似団体平均と比べ概ね良好な経営状況であると判断される。

しかし、今後は人口の減少や節水型機器の普及による水需要及び給水収益の減少により、良好な状況を継続することは難しくなっていくことが予想される中、「水道ビジョン」及び「経営戦略」に基づき事業を進め、財政状況を分析し、コスト削減などの適切な措置をとりことで施設更新にかかる財源を確保することにより健全な事業経営を維持する必要があると考える。